

【Report】チャレンジ・胃がん撲滅に向けて

# 1994年からピロリ菌の 除菌を推奨、独自の除菌方法で 成功率100%を達成

東京都豊島区

医療法人社団晴博会 あんこうメディカルクリニック

院長 安康 晴博

H. pylori (ピロリ菌) 感染症認定医 (認定医番号00040号)



胃の病気の根源を断つことを第一義としてピロリ陽性の方には除菌を推奨している安康晴博先生は、オリジナルの除菌方法で除菌率100%を達成しているが、禁煙しない人には除菌しないなどこだわりも強い。しかし、これらはすべて患者さんのためを思っていること。「安心・安全・癒しがモットー」という安康先生の「胃がん撲滅」に向けた思いを聞いた。

## 安康 晴博 略歴

1991年東京女子医科大学消化器病センターに入局後、安康メディカルセンター副院長・外科医長・消化器科医長。2007年あんこうメディカルクリニック開院。資格は日本外科学会（認定医）など。

## 胃の病気の根源を絶つ

あんこうメディカルクリニックは、都心のターミナル・池袋駅のすぐそばという利便性の高い立地にあり、外来だけではなく人間ドックや企業検診も行っている。

「僕は100%じゃないと気が済まないんですよ」安康晴博院長は自らのこだわりを語り、ピロリ菌の除菌を進めてきた背景についてこう説明する。「ピロリ菌の除菌を本格的に始めたのは1994年ですが、その前も積極的に取り組んでいました。きっかけは、アメリカのNIHコンセンサス会議です。すべてのピロリ菌陽性の消化性潰瘍は、初発・再発を問わず除菌すべきであると結論づけられたときに、そんな治療があるのかと衝撃を受けたんですよ。で、

実際に取り組んでいくにつれて、これはいけると確信を持つようになりました。僕がもともと外科医だったというのもあるんでしょうけど、残すのがきらいなんです。根本的な治療をしたい。ピロリ菌って除菌すれば胃の病気の根源を絶つことができるでしょ。これは面白いと思ったわけです」。

## オリジナルの 5剤併用療法変法

抗生物質2剤とPPI（プロトンポンプ阻害薬）1剤の3剤を併用するのが一般的といわれるピロリ菌の除菌方法についても、安康院長はこだわりを持っている。めざしているのは除菌の成功率100%である。

「元自治医科大学主任教授の木村健先生に教えていただいたことをベースに、自分で研究・修正してたどり着い

たのが5剤併用療法変法です。抗生物質4剤とPPI剤の5剤。実際は、それ以外に整腸剤を2剤（ビフィズス菌を中心としたものと乳酸菌を中心としたもの）、エカベトナトリウムという胃潰瘍の薬を加えて8剤を飲んでいただくことになるんですけどね」。



待合室にある大型水槽

この方法で行ってきたピロリ菌の除菌は500例を越えているが、驚くことに今現在の除菌成功率は100%、除菌に失敗した人は1人もいないという。

## 除菌成功率 100%の裏側

安康院長オリジナルの5剤併用療法変法は、12時間おきの薬と8時間おきの薬とのコンビネーション。1日4回、決まった時刻に飲んでもらうことになるが、安康院長は、その人それぞれの生活パターンを聞きながら、無理なく飲める時間を決めていくという。「生活スタイルは人それぞれですからね。確実に飲んでいただくためには必要なことだと思っています」。

除菌成功率100%の裏側にはこんなことも。「除菌をする際にお願いしていることがあります。除菌中はお酒は飲めませんし、生ものを食べることも控えてもらっています。下痢になったときに原因がわからなくなるので。それから、最も重視していることが禁煙。僕は禁煙した人じゃなければ除菌しません。他の病院に行ってもらいます」。過去に経験した失敗例を分析してみると原因が喫煙にあると考えられたことからこだわっているようだ。除菌にあたっては禁煙が大前提だと、安康院長は言い切る。

## 胃の検査は「内視鏡」

あんこうメディカルクリニックでは検診や人間ドックも行っていて、胃の検査も、抗体検査・内視鏡・X線検査の中から選択できるようになっている。



池袋駅から徒歩1分、  
利便性の高い立地にある

しかし、安康院長はすべての人に内視鏡を勧めている。「組織を採れることが一番ですね。直接観察できるので早期の胃がんを見つけるのにも適しています。X線検査を希望する人もいますが、画像を見せて口説きます。内視鏡で撮った写真とレントゲンの写真を見てもらうと、その違いは一目瞭然ですから」。

企業検診の話が来た際には、検査方法について担当者と話し合っているようだ。「一般的にはX線検査がベースになるんですが、それで本当にいいんですか、と問いかけます。ピロリ菌がないと胃がんにならないし、無駄な放射線を浴びることもないわけですから。ピロリ菌を調べてリスクによるふるい分けをして必要に応じて内視鏡検査をする方がいいんじゃないかと提案するわけです」。今は、安康院長の提

案を聞き入れて検査方法を変えるところも多くなっているそうだ。

## 大切なのは 「説得力」と「熱意」

安康院長は、すべての薬のサンプルをファイルに入れておき、患者さんに説明するときは常に「今日お渡しするのはこの薬です」と現物を見せている。納得した上で服用してほしいという思いの表れである。

オーダーメイドの除菌方法にしる、人間ドックにしる、安康院長は胃がん撲滅というビジョンを持ちながらも、常に患者さんひとりひとりが納得して診療を受けてもらうためにどうすればいいのかを考え、手間もかけている。

「除菌率100%」という実績は、こうした熱い思いと強いこだわりがもたらしているようだ。

### あんこうメディカルクリニック

安心・安全・癒し、この3つを基本理念に消化器疾患全般を診療。インフォームドコンセントを大切にしているクリニックで、ピロリ菌の除菌成功実績は1,000件を超えている（2010年11月現在）。 <http://ankoh.jp/>

## 胃がん撲滅に向けて～がん検診プロジェクト

富士フィルム株式会社は、がん検診の受診率向上に向けた取り組みを始めています。平成23年度末までに、従業員の肺がん、胃がん、大腸がん、乳がんの検診受診率90%以上、子宮がんの検診受診率50%以上を目指しています。また、平成15年よりピンクリボン運動に賛同して各種イベントに協賛、平成21年10月には厚生労働省が創設した「がん検診受診促進企業連携推進事業」の推進パートナー企業に登録しました。今後は、日本人の罹患率が高い5つのがん（肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮がん）の検診受診率向上に向けてさまざまな活動を展開していきます。